

職員による自己評価

A 環境面

- ・ 2部屋あるため、活動スペースは確保されている。
- ・ 職員の人数が足りないと感じる場面がある。
- ・ 送迎車1台の駐車場まで、子ども達を連れて道路を渡るのにやや危険性を感じる時がある。

B 児童への支援内容

- ・ 面談等で得た情報は、職員会議などで全職員に周知する事が出来ている。
- ・ 専門家の運動研修に参加している。

C 関係機関との連携

- ・ 相談支援事業所とは連携を取れているが、学校の先生や他事業所との情報交換などはほとんど行っていない。

D 保護者への説明責任・信頼関係

- ・ 契約時に、重要事項説明書等の書類を使い説明を行っている。
- ・ 送迎時や連絡ノートにてその日の活動の様子をお伝えしている。

E 非常対応

- ・ マニュアルの整備、保護者への周知が出来ていない。
- ・ 避難訓練等は利用者全員が年2回参加出来るように組んでいる。

保護者による評価

A 環境面

- ・ 運動を創作で部屋がわかれているため、活動の切り替えがしやすい。
- ・ 子ども達の勢いがすごいため、安全に保育するので精一杯な気がする。
- ・ 外階段が急。敷地そばの車通りが激しい。

B 児童への支援内容

- ・ 創作は低学年向けの内容が多い。
- ・ 支援計画書は、面談の上、綿密に作られている。
- ・ 学校の体育の授業では行き届かない部分もあるため、個々のレベルに合わせて支援してくれている。

C 事業所からの情報発信

- ・ 契約時に重要事項説明書の説明を受けている。
- ・ 相談支援事業所との連携が不十分な時期があった。
- ・ 保護者同士が顔を合わせる機会がないので、年1回でもあればいいと思う。
- ・ 保護者同士の関わりは特に求めている。

D 非常対応

- ・ 訓練はしているが、非常時に親がどうすべきかの連携はない。

事業所内での分析

【共通点】

- ・ マニュアルを周知出来ていない。
- ・ 送迎車に乗るまでの道のりが危険に感じる（バリアフリー対応が難しい）
- ・ 保護者同士顔を合わせる機会はほとんどない
- ・ 契約時に重要事項説明書にて説明を行っている

【相違点】

- ・ 意思の疎通、情報伝達の部分で温度差がある
- ・ 活動報告の報告方法の周知が不十分

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・活動プログラムが充実している
(長期休暇中のイベントや、祝日の特別プログラムなど)
- ・子どもの特性に合わせたプログラムを実施している
- ・活動スペースが広い
- ・専門家による研修受講、療育内容の監修
担当者の研修への参加

事業所の改善点

- ・活動報告のアピール方法の検討
- ・緊急時対応、マニュアルの整備・保護者への周知

事業所の改善への取り組み

- ・ホームページ（ブログ）やお便りにて活動内容の報告を行います。
- ・緊急時対応や各種マニュアルを事業所内で見直し、保護者の方々への周知を行います。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

事業所側が思っていた以上に、情報発信がうまく伝わっていない部分が結果から汲み取れたため、保護者目線に合った伝え方が大切だと感じました。

今回頂いた結果・ご意見を今後に活かし、より良い環境の中で療育が行えるようにしていきたいと思えます。

事業所名 のびの木 みつきょう

担当者 横山 悠